

南野上小学校、北野上小学校、中野上小学校統合実施計画

令和6年3月28日策定
令和7年9月24日改定

1 学校規模の適正化に関する基本的な考え方

義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。このため、学校では、単に教科書等の知識や技能を習得するだけでなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて社会性や規範意識を身につけていくことも重要であり、こうした教育を行うためには、一定の規模の集団が確保されていることが必要となってきます。

こうしたことから、本市では、学校が持つ地域コミュニティの核としての性格やその他多様な機能に留意しつつも、「海南市学校規模適正化基本方針」で示した、適正な学校規模を確保することで、児童生徒の教育条件の改善と、学校教育の目的をより良く実現するため、保護者や地域の方々の理解と協力を得ながら適正配置を進めていくこととしています。

2 各校の児童・学級数の現状と今後の見通し

南野上小学校

現在、5学年が4人以下となっており、今後も全校児童20人前後の見込みである。学級数については、複式学級3学級となっており、今後も同様となる見込みである。

北野上小学校

令和10年度には、全校児童40人を下回る見込みである。学級数については、令和8年度に複式学級が2学級生じる見込みである。

中野上小学校

令和7年度に全校児童100人を下回っている。

各小学校における児童数・学級数の推移

<令和7年5月1日現在>

学校	学年	R7		R8		R9		R10		R11		R12		R13	
		人数	学級数												
南野上小学校	計	17	3	17	3	18	3	18	3	20	3	17	3	18	3
	6年	3	1	2	1	4	1	1	1	5	1	2	1	3	1
	5年	2		4		1		5		2		3		3	
	4年	4	1	1	1	5	1	2	1	3	1	3	1	4	1
	3年	1		5		2		3		3		4		3	
	2年	5	1	2	1	3	1	3	1	4	1	3	1	2	1
	1年	2		3		3		4		3		2		3	
北野上小学校	計	54	5	49	4	42	4	34	4	30	3	26	3	27	4
	6年	8	1	13	1	13	1	7	1	8	1	5	1	3	1
	5年	13	1	13	1	7	1	8	1	5		3		6	1
	4年	13	1	7	1	8		5		3	1	6		5	
	3年	7	1	8		5	1	3		6		5	1	3	
	2年	8		5	1	3		6		5	1	3		4	
	1年	5	1	3		6	1	5	1	3		4	1	6	1
中野上小学校	計	97	6	90	6	90	6	82	6	78	6	66	6	57	6
	6年	19	1	15	1	16	1	14	1	20	1	13	1	12	1
	5年	15	1	16	1	14	1	20	1	13	1	12	1	15	1
	4年	16	1	14	1	20	1	13	1	12	1	15	1	8	1
	3年	14	1	20	1	13	1	12	1	15	1	8	1	10	1
	2年	20	1	13	1	12	1	15	1	8	1	10	1	8	1
	1年	13	1	12	1	15	1	8	1	10	1	8	1	4	1
2小学校計(南野上・中野上)	計	114	6	107	6	108	6	100	6	98	6	83	6	75	6
	6年	22	1	17	1	20	1	15	1	25	1	15	1	15	1
	5年	17	1	20	1	15	1	25	1	15	1	15	1	18	1
	4年	20	1	15	1	25	1	15	1	15	1	18	1	12	1
	3年	15	1	25	1	15	1	15	1	18	1	12	1	13	1
	2年	25	1	15	1	15	1	18	1	12	1	13	1	10	1
	1年	15	1	15	1	18	1	12	1	13	1	10	1	7	1
3小学校計	計	168	6	156	6	150	6	134	6	128	6	109	6	102	6
	6年	30	1	30	1	33	1	22	1	33	1	20	1	18	1
	5年	30	1	33	1	22	1	33	1	20	1	18	1	24	1
	4年	33	1	22	1	33	1	20	1	18	1	24	1	17	1
	3年	22	1	33	1	20	1	18	1	24	1	17	1	16	1
	2年	33	1	20	1	18	1	24	1	17	1	16	1	14	1
	1年	20	1	18	1	24	1	17	1	16	1	14	1	13	1

※令和7年度の北野上小学校は、臨時に定数内の教員から担任を捻出することで複式学級を解消

3 南野上小学校・北野上小学校における現状の課題

- ・南野上小学校においては、現状全ての学級が複式学級となっており、北野上小学校においても令和8年度に複式学級が2学級発生する見込みである。教師が複数の学年を同時に指導することから、授業に制約ができ、学年差・能力差に応じた指導や、きめ細かな配慮を行いにくい。
- ・学校行事や音楽活動等の集団教育活動が小規模にならざるを得ない。
- ・多様な考え方や価値観を持った児童との出会いに恵まれにくいため、知的刺激が少ない。
- ・少人数状態であることから、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが難しい。

※複式学級になる条件（県内共通）

2学年の児童数が16人以下のとき

ただし、1年生を含む場合は8人以下のとき

4 学校規模適正化の取組方針

(1) 適正な学校規模（特別支援学級を除く学級数）

本市では、「海南省学校規模適正化基本方針」により、適正な学校規模を以下のとおり定め、適正配置に取り組む際にはこの規模を目指すものとします。

校種	適正規模	基本的な考え方
小学校	6学級以上 (1学年1学級以上)	多様な考えに触れながら学ぶことを可能にするためには、学級の中で複数のグループやペアを構成することができる規模が望ましい。

※適正配置に取り組む学校

ア 適正配置の検討を行う学校

適正規模を下回る、または見込まれる場合には、保護者や学校・地域の関係者と検討・協議する体制を整備し、適正配置の検討を行います。

なお、適正配置を実現するためには一定の期間を要するため、適正規模を下回るかどうかは6年後に入学する児童生徒数の見込み*に基づいて判断します。

* 小学校入学者数は出生者数から推計

イ 適正配置を積極的に推進する学校

小学校においては、同学年の人数が少なくなると複数のグループやペアを構成し、多様な考えに触れながら「主体的・対話的で深い学び」を実現することが難しくなります。よって、児童数が5人を下回る学年が生じている、または見込まれる場合には、適正配置を積極的に推進します。

(2) 適正規模校のメリット

学校規模が大きくなることにより、様々な面でメリットが認められます。

学習面	<ul style="list-style-type: none">●集団の中で、多様な考え方方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。●運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。●児童数、教職員数がある程度多いため、グループ学習や小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none">●児童数が多くなると、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。●切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。●学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。●小さい集団では、お互いの評価が固定化しやすく、児童同士の人間関係がつまずいた場合にその修復に向けた対応が難しくなる。
学校運営面	<ul style="list-style-type: none">●教職員数がある程度確保できるため、経験、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いややすい。●学年別の教職員同士で、学習指導や児童指導等についての相談・研究・協力等が行え、資質や指導力の向上につながりやすい。●校務の分担が組織的に行いややすい。●教員数が確保できることで児童の安全確保や危機管理等への対応もでき、出張、研修等にも参加しやすい。
その他	<ul style="list-style-type: none">●PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。

(文部科学省 中央審議会の初等中等教育分科会で配布された資料を基に作成)

【学校規模適正化の取組方針】

「海南省学校規模適正化基本方針」に基づき、南野上小学校、北野上小学校の学校規模の適正化に取り組む必要があるため、今後児童数の減少が見込まれる中野上小学校を含め、適正化に取り組みます。

5 統合学校の位置

(1) 統合学校の位置の検討

中野上小学校周辺は3つの小学校区の中間的な位置となっていますので、統合校舎は中野上小学校周辺に設置することを検討します。

中野上小学校から各施設までの概算距離

各施設	所在地	概算距離	
中野上小学校 椋木 93	高津児童館	高津 674-2	6. 3km
	青葉台	七山 1495	6. 1km
	七山地区第2集会所	七山 1345-7	5. 4km
	北野上小学校	孟子 174	3. 5km
	ひや水地区集会所	ひや水 162-2	3. 8km
	南野上小学校	次ヶ谷 80	2. 4km

(2) 中野上小学校周辺における校舎敷地等の検討

中野上小学校周辺における校舎敷地等の課題等

案	校舎位置	課題等
①	中野上小学校校舎を利用する。	・現在の学校施設は、3つの小学校の児童を受け入れられる広さがあり増築の必要がないが、校舎の残存年数が短いことから、長寿命化改修工事等が必要である。
②	中野上小学校周辺に新たな学校用地を取得する。	・学校用地の取得費、造成費や校舎新築の費用が必要。 ・学校敷地として一団の土地取得が課題。 ・校舎の新築等、整備の必要があるため開校まで時間を要する。
③	東海南中学校のグラウンドに中野上小学校の新校舎を新築する。	・授業時間が違うため、体育館・グラウンド施設を小中で共用することが困難である。 ・校舎新築の費用が必要。 ・過去にグラウンドや周辺が浸水したことがある。 ・校舎の新築等、整備の必要があるため開校まで時間を要する。

【統合学校の校舎】

中野上小学校周辺における学校敷地を検討した結果、統合学校の校舎は、中野上小学校とします。

(参考)

中野上小学校校舎の状況

種類	建築年	面積m ²	耐震性の有無
普通・特別教室棟	S 40	856	有
管理・普通・特別教室棟	S 50	1,090	有
特別教室棟(3F 学童利用)	S 52	851	有
屋内運動場	S 57	725	有
給食室	S 60、H13	184	有
その他(倉庫等)		40	
計		3,746	

敷地面積 9,060 m² (内訳建物敷地 4,458 m²、グラウンド 4,602 m²) 借地 5,439 m²

6 統合に向けた現状の課題・対応・結果・取組方法

【課題】

- ・ 統合に向けた交流学習の機会創出。
- ・ スクールバス等を導入した場合、中野上小学校周辺走行時における徒歩児童の安全性の確保。
- ・ 北野上地区における地域住民から地域の衰退に繋がるのではないかと懸念する意見がある。
- ・ 老朽化している中野上小学校の校舎の整備。

【対応・結果】

- ・ 令和7年度より3校による交流学習を充実することで、学習環境の変化による影響を軽減するとともに、統合への機運の醸成を図る。
- ・ 中野上小学校プール北側を送迎車やスクールバスの発着場所として整備し、送迎車等と徒歩児童の導線を分離し、安全性の確保を図る。
- ・ 北野上地区の地域住民全体に向けた説明会を実施したところ、保護者の意見を尊重することや、子供の教育を考え、統合した方が良いのではないかという意見があり、統合に対して一定の理解を得た。
- ・ 北野上小学校の未就学児を含む保護者に対して意見聴取会を実施したところ、統合に反対する意見はなく、前向きな意見や質問があった。
- ・ 整備方針については、長寿命化事業にて検討し、令和7年度は、体育館の長寿命化工事を実施する。

【統合の取組方法】

- ① 先行して令和8年4月に南野上小学校と中野上小学校を統合し、東海南小学校として開校します。
- ② 北野上小学校は、令和9年4月に東海南小学校に統合します。

7 統合までのスケジュール

	R6	R7	R8	R9
南野上小学校			令和8年4月 東海南小学校開校	
中野上小学校		学校統合推進検討会にて所掌事項の検討		
北野上小学校			移転の準備	令和9年4月 東海南小学校に 統合
		交流学習		

8 学校統合推進検討会の設置

南野上小学校、北野上小学校、中野上小学校の統合にあたって、新しい学校を円滑に開校するために、学校統合推進検討会を設置します。（令和6年12月25日設置）

学校統合推進検討会では、統合に係る諸課題の細部について、調査、検討し、十分な理解と協力を得ながら進めていくこととします。

学校統合推進検討会は、①保護者を代表する者、②学校の職員を代表する者、③校区内の自治会を代表する者で構成します。

【学校統合推進検討会の所掌事項】

- ・学校名称に関すること
- ・式典行事の計画等に関すること（開校式）
- ・児童、教職員等交流事業、学校行事に関すること
- ・移転計画に関すること（学校の歴史等の継承、備品確認等）
- ・P T A組織編制（規約・役員の選出等）に関すること
- ・通学路の安全対策に関すること
- ・校舎等の施設整備に関すること
- ・校則、制服、体操服等に関すること
- ・学童保育に係る関係機関との調整に関すること
- ・その他